

吉備国際大学研究紀要
 (人文・社会科学系)
 第28号, 171-179, 2018

人間関係形成能力を育む学級活動の展開

—学級活動と道徳の役割を意識した児童による主体的な活動を通して—

川上 はる江*・小野 元子**

Developing group activities aiming to improve human relationships building ability
—An effective way of connecting group activities and a moral lesson thinking of each function.—

Harue KAWAKAMI*, Motoko ONO**

Abstract

In this study, it is verified that connecting a moral lesson which aims to raise moral practical motivation and to improve attitude with class activities which aim to have spontaneous and practical attitude and to build desirable human relationships through group activities is effective in improving “human relationships building ability”.

In connecting them, the important things are guessing the stream of consciousness of children and clarifying each function.

Key words : building human relationships, group activities, moral, role

キーワード : 人間関係形成能力 学級活動 道徳 役割

I 研究の背景と目的

1. 研究の背景

平成30年度から、道徳は教科化され、特別の教科道徳としてスタートする。道徳が教科化された背景はいくつかあるが、2013文部科学省^{*1)}によると、道徳教育の課題として次の3点が報告してある。

・道徳の時間が読み物の登場人物の心情の読み取り

に終始して、何を学んだのか印象に残らない。

・各教科との関連が行われにくく、実践的な行動にまで及ばない。

・他の教科にすり替えられ、道徳の授業が行われていない。

また、一方では「大津事件」をはじめとする一連のいじめ事件が指摘され、子どもに道徳性が育っていないと報告された。

* 吉備国際大学心理学部
 〒716-8508 岡山県高梁市伊賀町8
Kibi International University
 8, Iga-machi, Takahashi, Okayama, Japan (716-8508)

** 高梁市立巨瀬小学校
 〒716-0013 岡山県高梁市巨瀬町4966-2
Kose elementary school, 4966, Kosetyou, Takahashi, Okayama, Japan (716-0013)

これらの道徳の教科化へ向けての背景を鑑みると、道徳の授業が児童・生徒にとって道徳的価値と正面から向き合う授業になっていないことや学校の教育活動と道徳の時間の関連が有効に働いていないことが教科化への動きとなっていることが分かる。

また、2017文部科学省の報告^{※2)}によれば、わが国の小・中学校の不登校児童生徒数は平成25年度から3年連続で増加し、不登校児童生徒数が高水準で推移している。この調査からも、集団活動を通して人間関係を形成する能力が育ちにくいという現状を知ることができる。

現行の学習指導要領^{※3)}では、特別活動の目標として「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団〔や社会〕の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め〔人間としての自覚を深め〕、自己を生かす能力を養う」とある。※〔〕内は中学校

特別活動の目標を見ると、ほとんど人間づくりの能力であり、学力以外で人間として育てたい力の多くが入っている。「集団活動を通して、よりよい人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる」という文言は言い換えると、集団活動を通して「人間関係形成能力」を育てるということである。

そこで、道徳的心情、道徳的判断力、道徳の実践意欲と態度など、心を育てる「道徳」の時間と自主的、実践的活動を通して、集団を育てる「学級活動」を効果的に関連させると、相互に影響を及ぼしながら「人間関係形成能力」をより確実に育成することができるのではないかと考え、本研究を行った。

2. 先行研究

学級活動と道徳の時間の関連を図った研究は多い。植木(2014)^{※4)}は、その研究を通して「道徳の時間と関連付けた道徳的実践を日々の学級活動の

なかで繰り返し行うことにより、その活動が意識付けとなって規範意識を効果的に醸成させることができた」と述べている。

また、新保(2013)^{※5)}は、「『かかわり』の視点が道徳の時間と学級活動の時間を適切に位置付ける有効な視点を提起することができる」と提唱し、「かかわりを生み出す力」を育成する道徳教育の具体案を紹介している。

特に植木の研究においては、生徒アンケートによる結果から規範意識に変化が見られ、学級活動と道徳の時間の関連を図ることの有効性は明らかである。新保の研究では、「かかわりを生み出す力」の育成に関して、道徳の時間と学級活動の学習内容の果たす役割や関連性が明確でないので、その点を明らかにしながら「かかわりを生み出す力」との結びつきを検証することが課題である。

一方、道徳の面からの先行研究では、作田・中山(2016)^{※6)}によって、道徳の教科化に伴う学校教育の今後の在り方として、飼育・栽培等の自然環境、空間的環境と並んで人間関係づくりの環境設定を積極的に行うことの必要性を挙げている。学校内でのコミュニケーションを始めとする人間関係づくりの活動や形態、異年齢でのコミュニケーションの機会、地域、幼稚園児とのコミュニケーションなど様々な人々との関係をもつことで道徳的価値を深め、拡張させる上で大切であると説いている。すなわち、道徳性を育むためにもコミュニケーションの基礎となる人間関係形成能力の重要性を説いており、特別活動と道徳の関連をもたせることの必要性を示唆している。

本研究は、「人間関係形成能力の育成」に関しての研究であり、位置付けとしては新保の研究の課題を受けて行っていることになる。

3. 研究の目的

道徳的実践意欲と態度の育成を目標とする道徳の

時間と道徳性の発達にかかわる実践的、体験的活動を行う学級活動の時間に焦点をあて「人間関係系形成能力」の育成をねらいとする効果的な学習活動を提案し、その有効性を検証する。

II 研究の内容

1. 学習指導要領（新）から読み解く道徳の時間と学級活動の関連性

具体的に検証に入る前に学習指導要領にどのように記述してあるか、学習指導要領から学級活動と道徳の関連性について読み取りその考え方を明らかにしたい。

平成30年から実施予定の学習指導要領解説道徳編^{*7)}によると、道徳科の目標は「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ物事を多面的、多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」と記述されている。

本来、道徳教育は学校の教育活動全体を通して行われなくてはならないものであり、道徳の時間は要としての役割を果たす。道徳科の目標を達成するためには、道徳科以外の教育活動と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導を行い、補ったり深化したり、統合したりすることが大切である。この活動を経て自己を見つめ、物事を多面的、多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めることができる。つまり、児童が必要な道徳性を身に付けていくためには、他の教育活動が不可欠であり、道徳性は、座学だけでは必ずしも身に付かないものである。

また、学習指導要領解説道徳編^{*8)}には特別活動との関連性について、次のような記述がある。「道徳科において実践活動や体験活動を生かす方法は多様に考えられ、児童の発達段階を考慮して年間指導計画に位置付け、実施できるようにすることが大切である。例えば、ある体験活動を通して考えたこと

や感じたことを道徳科の話し合いに生かすことで、児童の関心を高め、道徳的実践を主体的に行う意欲と態度を育む方法などが考えられる。特に特別活動において、道徳的価値を意図した実践活動や体験活動が計画的に行われている場合は、そこでの児童の体験を基に道徳科において考えを深めることが有効である。」この記述からも特別活動との関連性を図ることが効果的であることが分かる。

道徳性は、体験のさなかで育まれるものではない。静謐な時間のなかで、その体験を想起し、道徳的価値に照らし、内省していく過程で初めて育まれると考える。また、授業だけで育まれるものでもない。現実の生活で実践されてこそ、道徳性が育まれたということになる。ただ、いくら実践が大切でも短絡的に道徳の授業で処世術を学習することは決してあってはならない。道徳の授業で培うべきは、道徳的心情であり、道徳的判断力であり、道徳的実践意欲と態度である。この道徳的実践意欲は心の構えである。そして、意欲が行動となって表れるのは、実際の教育活動、生活の全ての場合である。

一方、学習指導要領解説特別活動編^{*9)}を見てみよう。目標は「集団や社会の形成者としての見方や考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質、能力を育成することを目指す。

- (1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。
- (2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見出し、解決するために話し合い、合意形成を図ったり意思決定したりすることができる。
- (3) 自主的、実践的な集団活動を通して、身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己実

現を図ろうとする」となっている。

上記のように、特別活動を通して身に付ける資質、能力は、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の3つの視点で整理してある。特に、「人間関係形成能力」は、集団活動を通して人間関係を自主的、実践的によりよいものへと形成する視点であり、個人と個人、個人と集団という関係性のなかで育まれる。それらは、まさに道徳性の視点であるA「主として自分自身に関すること」B「主として他の人とのかかわりに関すること」C「主として集団や社会とのかかわりに関すること」に深く関係するところであり、人間関係形成能力を身に付けるためには、道徳的視点、道徳の授業との関連抜きには考えられない。

実際、学習指導要領解説特別活動編^{*10)}には、両者の関連について次のように示してある。「児童が特別活動における様々な活動において経験した道徳的行為や道徳的实践について、道徳科の授業でそれらについて取り上げ、学級全体でその道徳的な意義について考えられるようにし、道徳的価値として自覚できるようにしていくこともできる。さらに道徳科の授業での指導が特別活動における具体的な活動場面のなかに生かされ、具体的な実践や体験などが行われることによって、道徳的实践との有機的な関連を図る指導が効果的に行われることにもなる」言い換えると、学校の全教育活動で行われている体験は、道徳の授業で想起され、道徳的価値と正面から向き合い、照らし合わせられることで道徳的な価値を吹き込まれ、新たに自覚される。さらに、授業で学んだ自らの道徳的価値の自覚は、道徳の授業以外の具体的な活動場面のなかに新たに生かされ、児童の道徳的価値の内面的自覚を認識させることになる。

このように相互に関連付けることで、両者が影響し合い、道徳性は育まれる。

2. 人間関係形成能力とは

次に、本研究で取り上げる人間関係形成能力について明らかにしておく必要がある。「人間関係形成能力」とは、望ましい人間関係を形成する能力のことである。「人間関係形成能力」は、集団のなかで、人間関係を自主的、実践的によりよいものへと形成する力である。そして、この能力は集団活動を通して育まれる。具体的には、課題の発見から実践、振り返りなどの学習過程全体を通して、人とのかかわり（個人と個人、個人と集団）のなかで育まれるものである。そしてこの能力は、自分の所属する集団への所属意識をもち、集団の一員としての自覚をもって、生活の向上のために進んで貢献していこうとする社会性の基礎と考えられる。

現行の学習指導要領^{*11)}においても、特別活動の特性として「集団活動を通して行うこと」「望ましい人間関係を形成すること」「自主的、実践的な態度を育てること」は核として記述してあるので、新学習指導要領においても根本的な考え方は踏襲している。

Ⅲ 研究の方法

(1) 期間及び対象学校

平成29年11月～12月上旬 O県T市K小学校

(2) 対象児童及び人数

小学校第1, 2学年 合計7名（男子4名, 女子3名）

(3) 研究仮説

- ・学級活動と道徳授業の内容の果たす役割を明らかにするために、児童の意識の流れを実態に応じて考え、学級活動、道徳授業を的確な場に位置付けると、人間関係形成能力が確実に育つであろう。

(4) 検証の仕方

- ・学級活動と道徳の授業の関連性を明らかにする

ために、学級活動に道徳授業がどのように生きているかを児童の発言記録や行動を基に検証する。

(5) 育てたい態度（人間関係形成能力の具体）

- ①他者とのよりよい人間関係を築こうとする意欲や態度（進んで知らない友達にもかかわろうとする意欲や態度）
- ②他者の気持ちを受け入れ、対人交渉に生かそうとする共感的態度（他の人にも関心をもち、気持ちを理解し進んで働きかけようとする共感的態度）

(6) 学習活動と児童の意識の構想

児童の意識を予想しながら、学級活動と道徳の授業の役割を考え、事前に学習の流れを構想した。その結果、児童の主体性を引き出すとともに、学級活動で他者とのよりよい関係を築こうとする意欲が具現化される。その体験がさらに道徳の授業に想起され、自分の内面にある道徳的価値と向き合うことができる。そして、児童に道徳性が確かなものとして育ち、「人間関係形成能力」がさらに育まれると考える。

今回の一連の学習活動は全6時間で計画された。生活科(2)－道徳(1)－学級活動(2)－放課後、課外－学級活動(1)である。この一連の学習を通して、道徳科が果たす役割は、児童の主体性を引き出し、①進んで知らない友達にもかかわろうとする意欲や態度を養うことである。また、学級活動の果たす役割は、集会活動の企画、話し合い、準備活動、本番、振り返りを通して自主的、実践的に協力して学ぶこと、結果として②他の人にも関心をもち、気持ちを理解し進んで働きかけようとする共感的態度の育成をすることを目標としている。

生活科では1学期からのサツマイモの栽培を通して、継続的に幼稚園児と交流をしている。苗うえ、草取り、芋ほりと数回活動を共にしている。今回の「サツマイモパーティーをしよう」は、一連の活動

のまとめとして位置づいている。

「人間関係形成能力」を育むという視点から総合的に関連させているが、それぞれの役割を意識し、主な活動と児童の意識の流れを、次の表のように構想した。

※「・」の表記は予想される児童の意識である。

表1 学級活動と道徳の関連構想表

①生活「サツマイモパーティーをしよう」(幼稚園)	11/15
幼稚園児と一緒にサツマイモ料理をしたり遊んだりする。	
・スイートポテトの作り方を丁寧に教えてあげよう。	
・幼稚園さんに分かりやすく教えてあげたいな。	
②道徳の授業B-(2) 思いやり、親切	11/28
・知っている人だけでなく、知らない人にも優しくしてあげたい。	
・本当の思いやりは、知っている人にも知らない人にも親切にしてあげることなんだな。	
③学級活動2 (ウ)「友達のよいところ」	12/1
「ありがとうの金メダル」を読み合うことで、友達や自分のよさにふれる。	
・こんないいことをしているのか。私もやってみよう。	
・友達のいいところ、たくさんあるなあ。	
④学級活動1「なかよし集会の計画を立てよう」	12/8
みんながもっと仲良くなるために2学期のお楽しみ会を議題に挙げ、計画を立てる。	
・もっと仲良くするために「なかよし集会」をしよう。	
・何をしたらもっと仲良くなれるかな。	
⑤放課後、課外・・・学級会で決まったことの準備	
⑥学級活動「なかよし集会」	12/14
計画に基づいて「なかよし集会」をする。	
・協力してよい会にしよう。友達クイズをしてよかった。	
・みんなと歌ったり、クイズ大会をしたりするって楽しいな。みんな、よく見ているなあ。	
⑦振り返り(終わりの会、日記)	12/14
「なかよし集会」の活動を振り返る。	
・楽しかった。友達のいいところがたくさん見つかった。	
・みんなと一緒に楽しかった。	

IV 研究の結果と考察

(1) 道徳の授業の実際（授業記録より）

道徳の内容項目B-(2)「親切、思いやり」低学年の目標は「身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること」である。転校してきた1年A児が、従来からの固定された人間関係のなかでかかわりがもちにくいという様子が見られたため、学級活動と道徳を関連させながら、「人間関係形成能力」を育成することを目標に実践を試みた。

「ぐみの木と小鳥」のねらいは、「ぐみの木と仲良しのりすさんを心配して嵐のなかを飛び立っていく小鳥の気持ちを考えるを通して、知らない人にも親切にしようとする道徳的実践意欲を育む」である。

導入段階の記録（表2）から、学級の児童たちの「知っている人には進んで遊びに誘ったり優しくしたりすることができるが、知らない人には恥ずかしくて親切にできない」という実態がうかがえる。転校生A児の気持ちも正直に表現されている。

表2 授業記録の抜粋 導入の発問

<p>T 思いやりってどういうことですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困っている人に親切にすること。 ・一人ぼっちの人と一緒に遊んであげること。 ・優しくすること。 <p>T 親切にしたり、遊びに誘ったりしたことがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇ちゃんが転んだとき、声をかけてあげた。 ・公園で遊んでいるとき、知らない子が来てさびしそうだから、『一緒に遊ぶ』って聞いてあげて一緒に遊んだ。 <p>T 知らない人に声をかけることができたんだ。他の人は、できると思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できない。前、さびしそうと思ったけど恥ずかしくて何も言えなかった。 ・声かけなんかしたことない。知らない人だもん。 ・私も恥ずかしいから、できないかもしれない。 ・引っ越してきたばかりのとき、遊ぶ人がいなかった。だれも遊ぼうと言ってくれなかった。 <p style="text-align: right;">(A児)</p>

さらに、授業が進んだ中心発問の場面の授業記録（表3）を分析すると、よく知らないりすさんにも、進んで親切にしたいという心情が高まっている。あまりよく知らなくても、「病気だから親切にしたい」とか「不安だと思うから」「一人でさびしいだろうから」と、他の人にも関心をもち、自分に置き換えて共感的に理解しようとしている。

また、動けないぐみの木が変わって、「自分は飛べるから助けに行かなくて」と、新たな自分の役割に対する気付きが生まれ、よりよい関係を気付こうとする意欲や態度の高まりが見られる。

表3 授業記録 中心発問

<p>T 小鳥さんは嵐のなか、りすさんのところへ飛んでいったけどどんな気持ちで行ったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・りすさんが心配だから。 ・りすさん大丈夫かなあ。 <p>T そんなによく知らないんだよ。知らないのに行くの。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・りすさんは、ぐみの木さんの友達だから。 ・①ぐみの木さんが大好きだから、知らない人でも優しくしてあげる。 ・小鳥さんはぐみの木さんのために行ってあげると思う。 ・①それだけじゃないよ。あまりよく知らなくても、病気だから親切にしたい。 ・②不安だと思うから。一人でさびしいから行ってあげる。 ・②ぐみの木さんは動けないからぼくが行ってあげなくちゃ。 ・①知っても知らなくても困っていたら優しくしてあげる。 <p>T 知っている人にも知らない人にも、優しくしたいと思っているんですね。</p> <p>①「人間関係を築こうとする意欲や態度」に関する発言</p> <p>②「他者に関心をもち気持ちを理解しようとする共感的態度」に関する発言 …………… 著者・担任分析</p>

このように、道徳の授業で、進んで知らない友達にもかかわろうとする意欲や態度、他の人にも関心をもち、他の人の気持ちを理解し進んで働きかけようとする共感的態度が育まれていることが分かる。

さらに、学級活動における児童の意識や考えを学級活動の際のつぶやき、行動から分析する。

(2) 学級活動の実際（授業記録より）

学級活動2（ウ）「友達のよいところ」、学級活動1「なかよし集会の計画を立てよう」の授業記録から、主体的に友達のよいところを見つけ、その内容を基に「友達クイズ」を作ったり、集会の内容に取り入れたりしている。友達に主体的にかかわり、よりよい人間関係を築くことを学級全員の活動へと変えているのである。これは、他者とのよりよい人間関係を築こうとする意欲や態度（進んで知らない友達にもかかわろうとする意欲や態度）が具現化している段階である。また、より発展的な活動に広げることで、学級全員がお互いのよさを知り、他者理解が進むと考える。結果として集団の高まりも期待できる。

また、学級活動1の記録（表4）から、集会の内容を考える際、いつも提案の趣旨「もっと仲良くなれるように」という視点にかえて考えている。そして学級活動2の「友達のよいところ」で見つけたことをクイズにするなど、子どもらしい発想で集会を楽しもうと積極的に考えている。低学年だが、相手を知り、理解することで仲良くなれると考えていることが分かる。

さらに、大切なことは、集団決定したことを自分たちの手で協力してやり遂げるという活動を通して、自分の役割に対する責任が生まれていることである。そして担任からの報告では、教師に指示されなくても、飾りの用意、音楽の選定、プログラム作成と進んで楽しそうに準備をしていたということだ。

共通の目標に向かって全員が協力する活動を通してよりよい人間関係が築かれ、一人ではできないことでも大勢の力でやり遂げることができるということを学ぶ。そして、一連の活動のなかで、「人間関

係形成能力」が育まれている。

(3) A児の変容

転校生であるため、少人数学級で、幼いころから人間関係が固定している集団に入りにくそうにしていたA児は、活動を通して少し変容している。

表4 学級活動の記録

学級活動2（ウ）「友達のよいところ」	12/1
「ありがとうの金メダル」を読み合うことで、友達や自分のよさにふれる。	
・○○さん、すごいなあ。私もやってみよう。	
・自分のことを書いてもらって嬉しい。これからもしよう。	
・みんないいところが、いっぱいあるなあ。	
学級活動1「なかよし集会の計画を立てよう」	12/8
提案理由・・もっと仲良くなれるように集会をしよう。	
主な発言	
・友達のいいところ見つけたから、友達クイズをする。	
・①友達をあてるクイズ。いいところいっぱいあったので。	
・②せっかく友達のこと考えたから。（全員賛成）	
・何をしたらもっと仲良くなれるかというと、歌を歌うといいと思う。	
・みんなでクリスマスの歌を歌うと、サンタさんがプレゼントをもってきてくれる。	
・①クリスマスの歌を歌うと楽しくなる。 <u>楽しくなってクラスが仲良くなる。</u> （全員賛成）	
・休みの日にしたことを発表しよう。（賛否半々）	
・②ふだん、友達がどんなことをしているかを知ったらもっとその人のことが分かって、仲良くなれる。	
・②友達の好きな遊びも分かるので賛成。	
・反対だったけど、賛成します。	
・サンタに何をもらいたいかな発表しよう。	
・もっと友達のことが分かると思うから。	
・言うのが恥ずかしいから、反対です。	
決定・・歌、友達クイズ、休みの日にしたこと	
放課後、課外・・学級会で決まったことを教師に指示されなくても、進んで楽しそうに準備している。	

担任によると、「道徳の授業では、遊んでもらえなかった思い出を語っていたA児だったが、道徳の授業後数日すると、『知らない子が公園で遊ぼうって言ってくれて嬉しかった』と、『ありがとうの金

メダル』に書いて貼っていた。よく知らない人にも親切にしてもらって嬉しかったことを友達に知ってもらいたかったのだろう」ということである。

また、「友達のよいところを書く活動では、しっかりと友達のよいところを書くことができていた」とか「集会へ向けての準備も友達と協力したり、自分の仕事以外のことも手伝ったりしていた」と報告を受けている。

集会後の日記（表5）では、集会のことではなく、あまり知らない郵便局長さんたちに優しくしてもらったことを書いている。担任からは、「A児の心のなかでは、よく知っている人にも知らない人にも親切にすることは大切なことだという意識が生き続けている。だからこそ、楽しかった集会のことより、郵便局で親切にもらったことを書いたと考えられる。一連の活動を通して、A児をはじめ言動に自信をもてなかった児童が、進んで他学年の児童に声をかけたり、積極的に活動に取り組む姿勢が見られたりするようになった」と、児童たちの変容についてコメントが付けられていた。

表5 活動後の児童の日記

- ・今日、郵便局へ行きました。年賀状を入れて嬉しかったです。郵便局では、局長さんたちに優しくしてもらって嬉しかったです。（A児）
- ・今日、みんなで「なかよし集会」をしました。もう一回したいくらい嬉しかったです。一番嬉しかったのは、友達クイズです。みんなともっと仲良くなりたいと思いました。
- ・友達をもっともっとふやしたいです。友達っていいなあと思いました。

この実践を通して、道徳の授業で学んだ「知っている人にも知らない人にも進んで親切にすることが思いやりである」という道徳的価値の自覚が、一連の学級活動のなかで具現化され、他者とのよりよい人間関係を築こうとする意欲や態度となって表れていることが分かる。

また、集会活動へ向けての計画、話し合い、準備、本番、振り返りを通して活動が広がりを見せている。具体的には、進んで友達のよいところを見つけようと、他者に関心をもち、積極的にかかわりをもったり、理解しようとしたりする活動へと拡大していると考えられる。

V まとめ

この研究を通して、「人間関係形成能力」の育成には、学級活動と道徳の授業を機能的に関連付けることが有効であることが検証された。関連付けるポイントは、2点ある。1つ目は、道徳授業の役割と特別活動（学級活動）の役割をきちんとさせること、2つ目は、児童の主体的な流れになるように、児童の意識を想定しながら関連させることである。

今回の実践では、道徳の授業を通して、他者とのよりよい関係を築こうとする意欲や態度が高まったり、自分の考えや気持ちと同等に他者の考えや気持ちを受け入れ、かかわろうとする共感性が高まったりすることが分かった。

今後は、他の内容項目で道徳授業と学級活動を関連させながら、「人間関係形成能力」に焦点をあてて研究を深めたいと考える。

引用文献・参考文献・註

〈引用文献〉

- *1) 「道徳教育の充実に関する懇談会の報告」について
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/096/houkoku/1343013.htm
- *2) 児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/29/10/_icsFiles/afieldfile/2017/10/26/1397646_001.pdf
- *3) 学習指導要領解説編 特別活動 32 文部科学省
- *4) 子供の規範意識を育む学級活動の展開
 ー自治上の生活場面を実践の場とし、道徳の時間との関連を図るー 植木 淳 2014 帝京大学大学院教職研究科 スクールリーダーコース 帝京大学大学院教職研究科年報 第5号：131-132
- *5) 「かかわりを生み出す力」を育成する道徳教育に関する一考察
 ー道徳の時間と学級活動の時間における共感性と相互性に着目した指導の有効性ー 新保 淳 2013 上越市立頸城中学校 教育実践研究第23集229-234
- *6) 道徳教科化に向けた今後の新しい教師教育と学校教育の在り方に関する考察
 ー総合単元的な道徳授業カリキュラムから考える真の道徳教育の検証ー 作田澄泰 中山芳一 2016 岡山大学教師教育開発センター紀要第6号01-10
- *7) 学習指導要領解説編 道徳 15 文部科学省
- *8) 学習指導要領解説編 道徳 92-93 文部科学省
- *9) 学習指導要領解説編 特別活動 15 文部科学省
- *10) 学習指導要領解説編 特別活動 36-37 文部科学省
- *11) 学習指導要領解説編 特別活動 11 文部科学省